

文字摺通信

第 75 号

2024年11月 1日

発行:文字摺歴史文化社

梁川にも渋沢栄一の足跡がありました

中村善右衛門「蚕当計功德碑」



梁川の蚕種業では、田口家、大竹家、中木家など諸家が並ぶが、中村佐平治家はその中でも代表的地位を占める家である。以前は右城町の、メインストリートの広瀬川を渡ったすぐ左（現ヨークベニマル）に店舗と屋敷があったが、水害により、現在地（旧梁川



高校近く)に移転し、居宅の前に「蚕当計功德碑」という巨大な石碑を建立した。蚕当計を発明した中村善右衛門の顕彰碑である。大正6年5月に建立されている。碑文は明治時代の官僚及び農政史学者、歴史学者である織田完之（おだかんし天保13年1842～大正12年1923）による。織田は佐藤信淵の著作の編纂を行い、また歴史上の人物の顕彰活動を行った。石碑の一行目に「蚕師中村翁碑銘 従三位勲一等男爵渋沢栄一題額」とあり、石碑上部の題「蚕当計功德碑」は渋沢栄一が揮毫している。渋沢は、岡崎市にある石碑「鷹洲先生寿碑（鷹洲は織田の雅号）」の題字を揮毫している。



なお、織田の三番目の妻くに（国子）は中村善右衛門の妻・いその姪であり、渋沢の妾であった。また渋沢と織田の関係は大蔵省時代から交流があり、また印旛沼干拓計画の頃から懇意であったという。中村善右衛門—織田完之—渋沢栄一、いろいろつながりがあるものである。この石碑の筆耕を文を次ページにつけるので参考にしていただければ幸いである。